

みらいの県土研究会地域部会（島田地域）

議事要旨

日時：令和6年12月12日(木) 14:00～16:00

場所：島田土木事務所 4階 第1・第2会議室

出席者：別紙出席者名簿のとおり

議事次第に基づき技術調査課から説明を行った。

発言者からの主な意見は以下の通り。

【情報共有】

- 1 静岡県における建設発生土リサイクルへの取組
- 2 建設発生土の適正処理に向けて
- 3 関係団体、各事業者の業務紹介
※建設発生土に関する意見等を記載

○砕石業協同組合

- ・ 郊外に多くある採石場は、重機、機材、設備と広大な敷地を有していることから、土質改良プラント、処分場、ストックヤードの何れにも活用できるポテンシャルを持っている。

○心絆

- ・ 移動式改良機で土質改良を行い、主に民間の工事へ出している。今年一年間では、80,000m³のうち、6～7割を民間の造成に納めた。
- ・ 防潮堤関係の工事にも若干出荷したが、改良土を造っても売れる状況まで行っていない。

○芝田重機

- ・ 今後、牧之原で残土の最終処分場を計画し、認可されれば改良プラントもやっていきたい。

○大河原事業

- ・ 採石場跡地を有効利用して、今年の4月から公共から民間までの建設発生土の受入れを行っている。
- 4 県機関・市町の主要事業の紹介
※建設発生土に関する意見等を記載

○島田土木事務所

- ・ 防潮堤工事、金谷御前崎連絡道路、空港等の盛土材として、建設発生土の有効利用に取り組んでいる。

○焼津漁港管理事務所

- ・ 港を拡張するための埋め立て等の計画はない。
- ・ 浚渫土の中に基準値以上のカドミウムが含まれた土砂があり、処分場に持ち込むことができなかつた経緯がある。
- ・ 今後の事業では、岸壁の増深事業により浚渫を何万 m³という単位で予定しているが、今後も基準値を超える浚渫土が出ると、処分先がないため、浚渫が出来ない状況になる。

○御前崎港管理事務所

- ・ 維持浚渫で発生する土は良質な砂であるため、浸食した海岸の養浜として利用している。
- ・ 現在、海面埋め立てや受け入れは行っていない。

○志太榛原農林事務所（農地）

- ・ 1 地区あたり 10ha の事業を茶園の基盤整備で 5 地区と水田の圃場整備で 1 地区を実施している。地区内の土で造成を行っているため、基本的に残土は外に出ない。
- ・ 島田市の茶園整備では、地区内に遺跡があるため掘削ができず、盛土のみで造成を行う必要があるが、茶の植栽に適した土 10,000m³位の確保が課題となっている。

○焼津市

- ・ 大井川港の防潮堤や堤防の事業等に取り組んでいる。また、市内に残土を処理する施設はない。

○島田市

- ・ 発生土の工事内利用は行っているが、他工事への利用が進んでいない。

○藤枝市

- ・ 管内の処分場では受け入れができない土砂については、SSM を活用して掛川市の防潮堤工事に搬出している。
- ・ 市内に処分場がないため困っている。

○牧之原市

- ・ 工事間流用を一番に考えているが、土質や時期が合わないことが課題。
- ・ 市で借用した場所をストックヤードとして活用している。
- ・ 最近、浚渫土の処分が難しい。また、処分費が上昇している。
- ・ 市内に処分場は何ヵ所もあるため、処分は出来ている。

○静岡市

- ・ 年間 26 万立米の建設発生土が出ており、その内 3 分の 1 は有効利用しているが、3 分の 2 は最終処分している。
- ・ 市内に最終処分場が少なく市外へ運んでいるため処理費が高騰している。また、市外の処分場から受け入れ時期の制限があるため工期の遅れが問題となっている。
- ・ 令和 5 年 9 月に建設発生土の処理に関する基本方針を定めた。
- ・ 民間の処理事業者に対し、処理場設置の支援を行っており、現状 6 件ほどの事業を進めている。

【意見交換】

- 1 島田土木事務所管内の建設発生土の状況
- 2 意見交換

(1) 新材・土質改良土について

○砕石業協同組合

- ・ コンクリート殻や土質改良土と産業廃棄物の考え方について、廃棄物リサイクル課とも一緒に検討した方がいいのでは。
- ・ RC 砕石が売れないことで、コンクリート殻の受け入れが出来ないという現状がある。今後、コンクリート殻の行き先がないために解体事業ができなくなることや不法投棄が懸念される。
- ・ 流用できない土は処分場へ搬出することになるが、盛土条例では、共通仕様書の盛土に適さない土は、使用出来ないことになっているので、一緒に考えないと成立しないのでは。

○技術調査課

- ・ 廃棄物リサイクル課の出席について確認する。
- ・ RC 砕石の問題は、他の管内でも同様の事例報告があった。

- ・ 発生土の再利用が増えることで砕石が売れなくなる理由を説明いただきたい。

○砕石業協同組合

- ・ リサイクル砕石が主に使われるのは道路の路床材だが、新設道路工事の減少で、需要が減っている。また以前は、道路工事の際に残土を搬出し、その場所に砕石を投入していたが、現場流用が進むと砕石の使い道がなくなる。

(2) 建設発生土の有効利用について

○島田土木事務所

- ・ 有効利用率が58%と低いのは、この数年は、河川の浚渫工事で最終処分していることが多い。

○技術調査課

- ・ 最終処分でも有効利用としてカウントできるケースもあるので認識の違いがあるのかもしれない。
- ・ 焼津漁港管理事務所の最終処分量が多く、砕石の購入量が多いことは、発生土の有効利用が出来ないため買っているのか。

○焼津漁港管理事務所

- ・ 最終処分は浚渫土砂で、購入している砕石は、胸壁工事の基礎に使用するための材料であり、両者は全く別物である。

○焼津市

- ・ 有効利用率が高いのは、緑の防潮堤工事で発生土を利用していたためで、工事完了により、今後は同様の有効利用率にはならない見込み。

○藤枝市

- ・ 当初より、牧之原市の処分場を指定することが多い。
- ・ 3種、4種の発生土が多いため、受入れ不可の処分場もあり、有効利用でなくても受入れが可能な処分場に搬出している。
- ・ 市の技術職員に対して処分場や改良プラント等の現場見学会を開催し、認識を高めている。

○牧之原市

- ・ 防潮堤の工事には、色々な工事の土を利用している。

○技術調査課

- ・ 長期的な視点として、防潮堤の工事がなくなった時のことを考える必要がある。

○静岡市

- ・ 研修会でのPRなどを通じて、SSMの活用に努めているが、義務付けまではしていない。最近では藤枝市とのマッチングにも繋がっており、これからも力を入れていきたい。

○心絆

- ・ 不良土を受け入れるには、改良後の搬出先を確保する必要があるため、早い段階で、受け入れ時期など事前相談してもらえると準備ができる。

○大河原事業

- ・ 今後、SSM等の利用促進により、良質土は再利用され、不良土の処分場への持ち込み比率が増加すると思われる。
- ・ 盛土条例等により盛土の規制が厳しくなっている中、盛土に使用する土が悪くなっていくという矛盾が起きるため、解消方法を考える必要がある。

○技術調査課

- ・ 盛土条例や規制法については状況が整い次第情報共有する。

○砕石業協同組合

- ・ 島田土木管内は大規模な処分場があり、静岡市など他地域からの受入も多い。
- ・ 建設発生土の利活用について、土木事務所管内などの圏域内の処分場で回すのか、あるいは地域を超えた広域でのやり取りも含めて県全体でバランスよく回していく取り組みか。

○技術調査課

- ・ 設計の考え方は、管内外に関わらず、運搬費と処分費の合計が一番経済的な場所を選ぶことになる。また、同時に有効利用する場合は経済性に関わらず有効利用することになっている。

第1回みらいの県土研究会地域部会

日時 令和6年12月12日(木) 14時～

場所 島田土木事務所4階第1・2会議室

次 第

1 開 会

○会の主旨説明【資料1】

2 情報共有

(1) 静岡県における建設発生土リサイクルへの取組【資料2】(技術調査課)

(2) 建設発生土の適正処理に向けて【資料3】(技術調査課)

(3) 関係団体、各事業者の業務紹介

(4) 県機関・市町の主要事業の紹介

3 意見交換

(1) 静岡県内の建設発生土の状況【資料4】(技術調査課)

(2) 意見交換

(3) まとめ

4 今後の予定(技術調査課)・閉会

みらいの県土研究会 地域部会 出席者名簿

日時： 令和6年12月12日（木） 14時～

場所： 島田土木事務所 4階 第1・2会議室

地域名：島田

機 関 名	所 属 名	職 名	氏 名	備 考
【静岡県（土木）】				
島田土木事務所	企画検査課	班長	下村 史郎	
〃	〃	主任	石橋 稜大	
焼津漁港管理事務所	整備課	班長	戸本 祥紀	
御前崎港管理事務所	企画振興課	主幹	末光 道生	
【静岡県（農林）】				
志太榛原農林事務所	農地整備課	班長	望月 泰史	農地
【市町】				
島田市	契約検査課	課長補佐	佐野 貴亮	
〃	建設課	係長	大石 浩一	代理：松浦
焼津市	契約検査課	主幹	長嶋 正輝	
藤枝市	契約検査課	主幹	小林 弘季	
牧之原市	建設課	維持係長	石川 祐己	
〃			大澤 裕翔	
静岡市	技術政策課	係長	柳生 太一郎	
〃	〃	主査	佐野 陽介	
【県建設業協会】				
島田建設業協会		環境・災害対策委員長	岡村 延昌	
〃		環境・災害対策副委員長	増田 雄也	
【県砕石業協同組合】				
株式会社静岡砕石センター		工場長	渡辺 貴彦	
株式会社東海造成			池谷 哲	
静岡県砕石業協同組合		専務理事	桑原 裕明	組合事務局
【建設発生土リサイクル業者】				
株式会社心絆		代表取締役	滝口 昌彦	
芝田重機有限会社	営業部	部長	伏見 佳昭	
【処分場業者】				
大河原事業株式会社	技術部	部長	永島 正哉	
【技術調査課】				
県交通基盤部	技術調査課	班長	牧野 忠広	
〃	〃	主査	長谷川 雄一	
〃	〃	主任	大橋 亮太	